

新規受託開始のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、下記検査項目につきまして、検査の受託を開始させていただく事となりましたので、ご案内申し上げます。

敬 白

2018年7月

【記】

◇新規受託開始検査項目

項目コード:2900

オートタキシン(ATX)

受託開始日:2018年8月1日(水)受付分より

オートタキシン(ATX)は、脂質メディエーターのひとつであるリゾホスファチジン酸の合成酵素です。血清 ATX は主に脂肪組織由来と考えられており、他に胎盤や一部の腫瘍組織でも産生亢進が認められます。

ATX は肝の類洞内皮細胞に取り込まれて代謝されるため、慢性肝疾患に伴う線維化の進行により内皮細胞に変化を生じると ATX の取り込みが減少する結果として、その血中濃度が上昇することから、血清 ATX は肝線維化のよいマーカーとなります。

近年、ウイルス肝炎をはじめとする慢性肝疾患の治療法が進歩し、線維化の進展抑止や病態改善も可能となったことにより、従前にも増して肝線維化の程度の把握ならびに治療後のモニタリングが重要となってきました。線維化の判定において最も確実なのは肝生検ですが、患者の身体的負担も大きいことから、相対的に侵襲性の低い肝線維化マーカー検査への期待はより高まっているといえるでしょう。

血清 ATX は軽度の線維化ステージ(F2)でも上昇し、既存の他の線維化マーカーに比べて早期の段階で線維化の進展を検出できると期待されます。

なお、副腎皮質ステロイド投与患者では、脂肪組織による産生低下により ATX 低値となる一方、妊婦では胎盤由来 ATX により血清 ATX 高値を示すため、注意が必要です。

※ 検査要項の詳細は裏面をご参照下さい

検査要項

検査項目名	オートタキシン(ATX)										
項目コード	2900										
材料	血清0.3mℓ										
保存方法	冷蔵										
容器	⑩:分離剤入り容器										
所要日数	3日～5日										
検査方法	FEIA法										
基準範囲※1 (カットオフ値)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①線維化進展例※2</th> <th>②肝硬変</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M</td> <td>0.910</td> <td>1.690</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>1.270</td> <td>2.120</td> </tr> </tbody> </table> <p>①より高い場合は、肝線維化進展例と判定。 ②より高い場合は、肝硬変と判定。</p>			①線維化進展例※2	②肝硬変	M	0.910	1.690	F	1.270	2.120
	①線維化進展例※2	②肝硬変									
M	0.910	1.690									
F	1.270	2.120									
単位	mg/L										
報告桁数	小数第3位										
報告範囲	0.100未満～100.000以上										
検査実施料	194点※3										
判断料	144点(生化学的検査(I))										
備考	<p>※1 判定上の留意事項</p> <p>ア、妊婦では週数が進むに従いATX濃度が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。</p> <p>イ、悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者では、ATX濃度が高値となることが確認されています。</p> <p>また、重度の心不全患者でも高値を示す場合があります。</p> <p>ウ、副腎皮質ステロイドを服用している人ではATX濃度が低値を示す場合があります。</p> <p>エ、肝炎ウイルスを原因としない慢性肝疾患においては、肝線維化ステージとATX濃度の関係がウイルス性肝疾患と異なる場合があります。</p> <p>※2 C型肝炎治療ガイドライン(第5.4版)の「肝線維化F2以上」に相当します。</p> <p>※3 算定留意事項</p> <p>ア、オートタキシンは、区分番号「D007」血液化学検査の「48」Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体の所定点数に準じて算定可能です。</p> <p>イ、本検査は、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定できます。</p> <p>ウ、本検査と区分番号「D007」血液化学検査「37」のプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)、「38」のⅣ型コラーゲン、「40」のⅣ型コラーゲン・7S、「44」のヒアルロン酸又は「48」のMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。</p>										